

議長

次に、質問順位 2番 10番議員 中村充子君。

議長

中村君。

中村議員

失礼いたします。

通告に従いまして一般質問をいたします。

山口県と和木町が総合防災訓練を実施しました。

私の住む上灰場自治会では集会所に集合し、自主防災アドバイザーによる「地震の時身を守る姿勢」シェイクアウトの訓練をいたしました。9時に防災無線により「緊急地震速報」訓練放送が流されシェイクアウトの訓練を行ないました。

その後、上灰場自治会では、自治会長が旗を持って先頭を歩き、最後尾は防災アドバイザーがつき、声を掛け合いながら無事に体育館に着きました。

本会場の和木中学校体育館では、個室や家族室、男子と女子簡易トイレ、汚物入れなどを見て回ったり、ベニヤ板を使って個室やベッドを作ったりして過ごしました。広報の、6月号では1ページを使って訓練内容や服装、歩きやすい靴での参加、防災リュック等あれば携行してくださいと記されておりました。

詳細は分からず高齢者は歩いての避難は難しく帰られた方もいらっしゃいました。

命を守るために町民の皆さんには是非参加していただきたいと考えておりましたが、時間は何時までを予定し、どんなことをされるのか早めに教えていただけるとありがたいです。

せっかくの日曜、お子さんがおられる方はご家庭の行事や練習試合等々組まれているかも知れません。

自治会への要請も遅く、避難内容も伝わり難かったと思います。

5月末日までに参加者を集めてほしいと説明があったようですが、詳しい内容がわからないまま人集めは難しくなります。今後は是非早めにお知らせいただく方が参加協力もできるのではないのでしょうか。今月は1日が土曜、2日は日曜、3日に広報が配布されました。

令和元年第4回（6月）定例会

6月9日に総合防災訓練となりますと、よほど防災に興味がある方の心にしか届いていなかったのではないかと思います。

もう少し早い防災訓練の詳細は知らせることができないものでしょうか。お伺いします。

議長 はい、田中企画総務課長。

田中企画総務課長 6月の9日に実施いたしました2019年山口県総合防災訓練につきましては、議会初日の行政報告において町長から報告がなされましたけど、この訓練は、山口県が地域における防災意識の高揚と地域防災力の向上を図るために、毎年、県内のいずれかの地域で行われているもので、本年は岩国・和木地区を対象として実施されたものです。

この訓練は、住民、消防、警察、自衛隊、海上保安署、医療機関などを主要参加機関として、「土砂災害警戒情報」、「記録的短時間大雨情報」等が発表され、大規模な土砂災害や河川の決壊が発生するとともに、最大震度7の大地震が発生し、道路等ライフラインの寸断、建物倒壊等が発生するという複合型災害を想定して、いわくに消防防災センターをメイン会場、それから岩国港、県岩国総合庁舎、和木町役場、和木中学校をサブ会場として実施されました。

訓練は、すべての参加機関、会場が連動して、被害発生状況に応じた数多くの訓練メニューが用意されておりました。訓練全体のボリュームが大きく広範囲にわたるため、すべてをお伝えすると混乱が生じると思われましたので、住民の皆さまには住民向け、あるいは消防団用、職員に向けて職員用、こういったそれぞれに分けて訓練内容をお伝えしておりました。

また、実際に災害が発生した際にはどのように行動すべきかを実際にそれぞれ参加者に考えていただきたくて、細かいシナリオなどもお示ししていなかったもので、参加者の皆さまには分かりづらい部分もあったかと思っております。

和木会場での訓練内容案については、3月の上旬に自治会長

令和元年第4回（6月）定例会

さんへ、主な訓練内容や12時までには終了することなどをお伝えしていたのですが、先ほど申しましたとおりに分りにくいところがあり住民の皆さまに伝わりづらかったところもあるのかなあというふうに考えております。

防災に関しましては、生命を守るため、どうすれば避難所へ避難していただけるかということをはじめ、その伝え方、情報伝達の難しさを実感することが数多くあります。引き続き、研究を重ねていく必要があるというふうに考えているところでございます。

議長 はい、中村君。

中村議員 よくわかりました。

あの手この手を使って日頃関心のない若い方々にも近くに住む高齢者を支援しながら避難することも考えていただきたく思います。

私の住む自治会は毎年防災の研修会を行っておりますが自治会長、副会長、班長など役員の方とその奥さん方といったいつものメンバーで行うことが続いております。防災訓練に何か工夫、手立てをしながら進めていくことはできないだろうかと考えているところです。

体育館の中は仮設トイレ、汚物室、休憩室、更衣室、個室、家族室など仕切りますと沢山の方が入るのは難しいだろうと思います。本当の災害時にどれだけの方が避難できるのか。住民を体育館へ避難させた訓練の目的を改めて伺います。

議長 はい、田中課長。

田中企画総務課長 和木町では避難する場所としてですね、緊急避難場所と避難所を指定しています。

今回の訓練では、住民の皆さまに、まず最寄りの集会所へ集まっていただきました。これは、とりあえず逃げたら安心なところである緊急避難場所へ集まっていたものでござい

令和元年第4回（6月）定例会

ます。次の中学校体育館への移動は、被災者が一定期間滞在できる施設である避難所、避難所へ避難していただくことを想定したものでございます。和木町では、35カ所の緊急避難場所、24カ所の避難所を指定しております。それぞれの最大収容人員は緊急避難場所で28,395人、避難所4,679人と想定しております。

当日は、大規模な土砂災害、それから河川決壊の発生とともに、最大震度7の大地震によりライフラインの寸断、建物倒壊等の大災害が発生したという被害想定で行われており、中学校体育館とともにコミセン、中学校の校舎、こども園、小学校も避難所として開設していたという想定でやっておりました。

なお、町ではですね、避難所の開設を、災害の発生状況にもよりますが、基本的には順番としてコミセン、中学校、こども園、小学校、こういった順で開設することを共通理解しております。当日、中学校体育館を避難場所として使用したのは、避難住民や消防車両の動線を確保しやすいこと、あるいは災害対策本部である役場からの避難所点検職員や運営職員の派遣が短時間で行えることを考慮したものでございます。

訓練では中学校体育館において、避難所運営について実際の行動を通じて認識を深めるために、町で準備した避難所環境改善資材を実体験していただきました。これは、昨年7月の豪雨災害の際に、避難の必要性が高まっているにもかかわらず、避難行動に結びついた件数が非常に低かったという反省点に立って和木町独自で計画したものです。

また、ご協力をお願いできる方に、電源確保やLED照明の設置、トイレ洗浄水の取水、パーテーションの設置訓練を行っていただきました。

251名の皆さまに避難所体験をしていただき、町全体で374人もの参加をいただいたことは非常に有意義であったと思っております。参加者からいただきましたアンケートでは、好意的な意見、提案、あるいはお叱りも受けておりますので、今後の改善に向けて活用させていただきたいというふうに考えております。

議長 はい、中村君。

中村議員 ありがとうございます。理解いたしました。
訓練の日に、らせん階段を上り、首脳部のおられる2階に
あがりました。
職員の皆さんは緊迫感をもって真剣に取り組まれておられ
ました。
休日にも関わらず出勤し、職員の皆さんが一所懸命働いてお
られる姿を拝見し、安堵したというところがございます。
県と一緒に総合訓練になりますと難しいかとは思いますが。
町職員の訓練状況が一般の方には伝わらないように見えた
のですが如何でしょうか。

議長 はい、田中課長。

田中企画
総務課長 当日、役場庁舎2階ロビーでは災害対策本部訓練を行って
おりました。実際の災害発生と同様に、応急対応班など5つの班
と消防団を配置し、避難所設置や消防団出動命令の発信、自治
会長さんなどから災害発生状況や行方不明者の状況報告、災害
発生や救助要請などの情報を受け、各担当に対応を指示すると
ともに、情報の収集整理などを行いました。当日、和木町で行
われていた和木中学校や体育館の訓練も対策本部からの指示
によって統一的に進められておりました。

また、11時から災害対策本部会議を開催し、状況説明を
行うとともに、今後の町の対応について本部長である町長から
の指示を受けたところでございます。

災害対策本部訓練も当然ながら公開をしておりましたが、主
には消防団や町職員の訓練であり、町民の皆さまには、まずは
避難所体験をしていただきたいという思いがありましたので、
役場庁舎にお越しいただくような積極的なお声掛けはして
おりませんでした。以上です。

議長 はい、中村君。

中村議員 私が見させていただいてこれをお伝えできた事はとてもよかったかなと思います。本当にありがとうございました。

防災訓練等はやるごとに不備は見つかるものです。今後の反省をいかして更に充実した防災訓練になることを切に願います。私の質問を終わります。

議長 再質問がないようでございますので、中村充子君の一般質問を終わります。